

午前中の笹川平和財団、日本財団、ディレクトハウス共催 夏期プログラムでは「世界を視野に、自らを生かす」というテーマのもと素晴らしい講師の方々の貴重な講演・グループセッションをさせて頂いた。私達 13 班は医師を志していて、直接関連する職業ではないものの財団の方々 4 人と意見を交わし将来のことについて考えを深めた。日本の世界の立ち位置などの話はとても参考になった。慶應義塾大学経済学部卒、現在国際教育研究所代表、ESUJ 理事をされている吉田文一さんの話の中で「日本の面積は世界で何番目？日本語は世界で何番目に多く話されている？」と、問われた。私はそのようなことを考えたことが無かった。吉田さんの答えに私達はとても驚いた。なんと、どちらも世界で 9 位だそうだ。日本は島国であるため領海が広く領土としては狭いが領域は広大なのだ。また、日本語を話すのは日本人だけが 9 位は意外に思える。

4 人目の酒井さんとの話では海についての話になった。海をきれいにするための取り組みを行っているそうだ。海をきれいにするというのは実は物凄い難しいことで例えば日本が海をきれいにしようとしても、その近隣諸国がそれに協力しないとするとそれは不可能となる。海をきれいにするためには海に面している国が全員協力して行かねばならない。しかし、日本とロシアや韓国の間には領土問題があるように協力するには様々な問題がある。そのように難しいことを行うのはとてもすごいと感じた。

午後は東京医科歯科大学 森尾友宏教授の元を訪ねた。森尾教授は小児科の専門医であり再生医療などにも関わっている。上手く話し合いを展開出来るか不安だったが、とても話しやすい気さくな方で緊張もほぐれ、話し合いは円滑に進んだ。話し合いの中で医療への不安、期待することについてが議題となった。医療は発達してきているが、医療費はとても高額になってきているそうだ。医療の発達とともに平均寿命は伸びていく。寿命の短い動物はがんにかからないらしい。しかし、平均寿命がこれからも伸びていくであろう我々のように長生きする動物ほど、がんになりやすい。これは医療の発達ががんのリスクを高めているとも捉え得る。森尾教授は、これからの医療には倫理問題が大きく絡んでくるとおっしゃっていた。私達が社会に出る頃にはそういった問題が顕著になると思うので今からでも少しずつ考えていきたい。

研究について大事なことを聞くと、まずコミュニティをつくるということだという。話によると、研究を一人で行うと言うのは非効率で難しいため、医師とは別の立場の人に協力してもらうそうだ。例えば理化学研究所や SONY などがそれにあたる。相手と直接会うことで仲を深め協力してもらうらしい。コミュニティを形成したうえで他の人の論文などを参考に重要なことは引用して研究する。また、研究は始めるまでに約一年半かかり、それから数年にわたって研究をする。途中で研究費が無くなると打ち切りになるので気を付けるそうだ。このように聞くと研究は根気が必要で厳しいと感じてしまうが実際は目の前に患者さんがいるという環境で、モチベーションはずっと維持できるらしい。

森尾教授は、「医師という仕事はただ学力があるだけでなく総合的な能力が必要」と述べられていた。というのは、医師は自由な時間が少なく体力を必要として責任感、集中力など様々な力が問われるからだ。この総合力は私達の社会での生活にも大きく役立つと思う。医師は大変な職業である一方で、人に感謝されるという他の職業には中々ない魅力もあるとおっしゃっていた。また、森尾教授との話のあと私達は特別に細胞を研究する部屋を見学させてくれることになった。研究室は外の空気を入れないために 3 つのドアを通して入る。白衣や手袋なども着させて頂き、他の所では出来ない素晴らしい体験をすることが出来た。こういった施設で研究が出来るのはと

てもいいなと思った。

夜のOB,OG座談会では二高卒業の東大、一橋大、医科歯科大の先輩の話を聞かせていただいた。東大には、通称:進振り、と呼ばれる制度が存在し簡単に言うと、入学後に学部選択が可能ということだ。この制度はとても便利だそうだ。先輩方の話はどれも刺激的独創的な素晴らしい話だった。共通して言われていたものは自分に合った勉強、自分の好きな勉強をするということだ。これは私のこれからの勉強に生かしていきたいと思う。

テレビで見たとおりの赤門を目の当たりにして感動した。東大のオープンキャンパスでは理系の学部学科を一通り見学して回った。中でも、今まで興味があったわけではないが午前中にいった素粒子物理学の講演が印象に残った。素粒子物理学とは、この世界は何で出来ているのか、どのような仕組みかという人類の素朴な疑問を最も基本的な素の粒子である素粒子レベルで研究するものだ。歴史は遡り1897年電子が発見されたのが始まりで最近では2012年にヒッグス粒子と呼ばれる粒子が発見された。この研究の面白いところはまだまだ研究初期段階であり、研究によって宇宙の更なる理解が可能になるという希望に満ちたものであるところだ。

昼御飯は東大の食堂で赤門ラーメンを食べた。味はとても美味しく量も多いが値段は400円と学生にはとても優しい値段だった。この食堂も東大の魅力のひとつだと思う。

午後は、医学部の展示を最初に見た。あまり長い時間いることは出来なかったが、インフルエンザウイルス、SARSについてなど専門的な内容が記されていた。その後は宇宙科学について見学した。赤外線は目に見えないが望遠鏡を利用してみるという。望遠鏡をただ利用しても赤外線を見ることは出来ず、標高が高いマウナケアなどの乾燥した場所で望遠鏡を絶対零度といわれる -273°C まで冷やす必要がある。赤外線は熱いものほど多く放射している。これを利用するとサーモグラフィなどになる。天文学では星をみるというより、星と星の間にある赤外線を見ることによって惑星の成分を調べるそうだ。とても面白い経験になった。

また、東大で東大についての本を買ったりアンケートで理学部のロゴ入りシャーペンを手にいれた。東大の学生で、テレビに出演している方々に会いたいと思ったが残念ながら一人も見ることが出来なかった。東大の学生は私が思った以上に優しい人で安心した。今回東大研修に私が参加したのは、東大に行きたいからではなく日本一の大学である東大をみるためであった。しかし、今回の東大オープンキャンパスで東大にも通ってみたいなと思った。

こうして、自分の進路と将来について考えることが出来たのでこれから生かしていきたい。また、森尾教授と話すという貴重な体験が出来て日本一の東大を見学することが出来て本当に充実した2日間だった。

最後に、ディレクトホース、日本財団、笹川平和財団の方々、森尾教授、医科歯科大の方々、企画をしてくださった先生方、本当にありがとうございました。この体験で高校卒業後の視野がよりいっそう広がりました。